

令和5年2月13日

当事者の視点から農作業中の事故を疑似体験できる『農作業事故体験VR』

新たなコンテンツ「田植機 巻き込まれ・転落編」を開発

— J A 共済連と農研機構、双方の知見を活かし農作業事故軽減に向けた更なる取組みの強化 —

J A 共済連（全国共済農業協同組合連合会・代表理事理事長：柳井二三夫）と農研機構（国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構・理事長：久間和生）は、農作業事故を当事者の視点から疑似体験する体験学習型プログラム『農作業事故体験VR』において、新たに「田植機 巻き込まれ・転落編」を共同で開発し、本年2月から提供を開始します。

農作業事故は年間約7万件発生していると推測され、特に死亡事故の発生割合については、建設業の約2倍、全産業の約9倍と高く、農業者が安心して農業を続けることができるように、農作業事故への対策が喫緊の課題となっています。

J A 共済連では、農作業事故の未然防止に貢献するため、過去の共済金支払データを活用して農作業事故の発生傾向を分析し、農業をめぐる事情や農業機械の構造・操作等に詳しい農研機構監修の下、「乗用型トラクター 転倒編」など発生頻度の高い事故場면을再現した5つのVRコンテンツ※を開発し、令和2年4月から『農作業事故体験VR』として全国展開を開始。令和4年4月には、「脚立 転落編」、「農用運搬機 転倒・積み降ろし作業編」を追加、同年8月にはVR体験用ヘッドセットを100台増設し、合計200台にて運用しています。

コロナ禍においても、『農作業事故体験VR』は農作業安全研修会、農業祭や農機具展示会等のイベントで着実に利用されており、体験者アンケートでは「実際に事故を体験せずに恐怖を味わえるため良い取組みだと思う」、「家族を巻き込んで農作業事故防止に取り組んでいきたい」など、9割を超える方から高い評価を頂いています。

今回、農作業事故未然防止の取組みを更に強化するため、新たなコンテンツとして「田植機 巻き込まれ・転落編」を追加しました。田植機は、「準備・整備時の回転部への巻き込まれ、鋭部との接触事故」や「重し代わりに機体前部にのせた補助作業者が振り落とされる事故」が多く発生しています。

今回開発したコンテンツは、シナリオ作成からVR動画の撮影・制作など全ての工程をJ A 共済連と農研機構が共同して行い、体験者が共感できるよう事故発生シーンのリアリティを追求し、具体的に原因と対策を解説しています。

J A 共済連と農研機構は、お互いが有する知見を活かして開発した本コンテンツの活用を通じた農作業事故未然防止にかかる取組みにより、農作業事故を1件でも多く減らし、持続可能な農業に貢献してまいります。

※体験者の目線に合わせて360度を見渡せる映像コンテンツです。

■ 新たに開発したVRコンテンツ「田植機 巻き込まれ・転落編（約5分）」の映像イメージ



「巻き込まれ事故」



「補助作業者の転落事故」

■ 農作業事故体験VRコンテンツ一覧

	タイトル	訴求内容
新規 コンテンツ	田植機 巻き込まれ・転落編	異物除去時の巻き込まれ防止、 ほ場からの安全な退出方法
既存 コンテンツ	乗用型トラクター 転倒編	道路からの転倒・転落防止
	耕うん機 後進作業編	後進作業時の挟まれ防止
	コンバイン 巻き込まれ編	手こぎ作業時の巻き込まれ防止
	スピードスプレーヤー 挟まれ編	樹木等との挟まれ防止
	刈払機 刃との接触編	刃との接触防止
	脚立 転落編	転落防止
	農用運搬機 転倒・積み降ろし作業編	悪路走行時の転倒防止、 トラック積み降ろし時の転倒防止

【参考1】農作業事故体験VRについて

- ・農作業安全研修、農業祭や農機具展示会等イベントに合わせてVR体験用のヘッドセット等を貸与し、受講者・参加者に視聴いただくことができます。また、JA職員が農家を訪問した際などにも気軽に使えるよう、スマートフォンから専用VRグラスを使用して視聴できます。
- ・YouTubeのJA共済公式チャンネルでも、全てのVRコンテンツ（計8種類）が視聴可能です。
- ・先進的な取組みが評価され、2020年のグッドデザイン賞を受賞しています。

○ 研修会やイベントでの使用イメージ



VR体験用ヘッドセット



使用イメージ（研修会）



使用イメージ（イベント）

○ JA職員が組合員・農業者のもとへ訪問した際のイメージ



VRグラス



使用イメージ

※スマートフォンにVRグラスを着用し使用します。

○ 「農作業事故体験VR」（YouTube）



QRコード

《URL》

【VR】田植機 巻き込まれ・転落編 <https://youtu.be/QZ8g225VqPk>

- ※ YouTubeで360度動画を視聴いただくには、所定の閲覧条件を満たしている必要があります。
- ※ 市販のVRゴーグルなどをお持ちの場合、使用するとより臨場感のある映像が楽しめます。
- ※ VR体験に加えて、事故の発生原因や安全対策にかかる学習動画も公開しています。

○ 研修会やイベントでの利用実績等について

- ・『農作業事故体験VR』を活用した地域の農作業安全研修会やイベントは、令和2年4月から令和4年12月までの間に、このコロナ禍においても38県で延べ338回実施されました。
- ・令和3年度までに回答いただいたアンケートでは、9割を超える体験者から高い評価を頂きました。

《体験者の主な感想》

- ・ただ話を聞くだけではなく、自分の目線で怖い体験ができて、ためになった。
- ・ちょっとした不注意が事故になることを理解した。
- ・身近でも農作業中の事故があり、改めて危険性を認識できた。
- ・作業中の安全確認がとても大事であることを学んだ。

【参考2】農作業事故の発生状況について

J A共済連では、令和4年4月に過去4年間（平成29年から令和2年）までの共済金支払データを用いて、農作業事故の発生要因や事故傾向について分析、農作業事故の実態およびリスクをとりまとめで公表しています。*

これまでに開発したコンテンツにより、農業機械による事故の42.8%、用具による事故の34.8%をカバーしています。

※ 分析および結果の詳細については、J A共済ホームページのニュースリリースにてご覧いただけます。

<https://www.ja-kyosai.or.jp/news/2022/20220426.html>

農業機械による事故件数（全体：5,668件）

- ・乗用トラクター : 962件
- ・自脱型コンバイン : 392件
- ・歩行用トラクター : 351件
- ・刈払機 : 301件
- ・農用運搬機 : 186件
- ・田植機 : 140件
- ・スピードスプレーヤー : 94件

用具による事故件数（全体：4,333件）

- ・脚立 : 1,510件